原　著

飼い犬の咬傷行動に関するインターネット情報の信頼性

伊藤かおる[1)†]　志賀保夫[1),2),3)]　田中雅織[4)]　松浦晶央[1)]　入交眞巳[5)]

1）北里大学獣医学部（〒034-8628　十和田市東二十三番町35-1）
2）ビジネス・ブレークスルー大学大学院（〒102-0084　千代田区二番町3番地）
3）㈱アイスタット（〒166-0011　杉並区梅里1-22-26）
4）㈠社㈡日本ドッグビヘイビアリスト協会（〒237-0064　横須賀市追浜町3-19）
5）東京農工大学農学部附属動物医療センター（〒183-0054　府中市幸町3-5-6）

本文はこちら

（2021年7月15日受付・2022年1月11日受理・2022年2月15日公開）

要　　約

犬の問題行動に悩んでいる飼育者は，インターネットを通じて解決手段の情報収集を行うと予想されるが，その情報の質については評価されていない．そこで，インターネット上にある咬傷犬のトレーニングに関する情報を網羅的に収集し，情報の質として情報信頼性と動物福祉の考慮を評価した．その結果，質の低い情報に曝されている現状が示された．また，「恐怖」という単語が高頻度で使用されており，「主従関係」や「痛み」といった単語と強く共起していた．飼育者が質の低いインターネット情報に振り回されないよう，飼育者側には，動物福祉の考え方と情報の見方について，ウェブサイト運営者側には客観的で科学的根拠に基づく情報の提供を求めるとともに，飼育者に適切な情報が届けられるよう獣医師らが率先して科学的根拠に基づいた適正な情報を発信していく必要がある．

――キーワード：動物福祉，咬傷犬，インターネット，情報の質，科学的根拠．

----------日獣会誌　75，e36～e45（2022）